

週日の説教

金 大烈 神父 2011年7月2日(土)

《聖母のみ心 ～母にふさわしい生き方をしていますか～》

私には子育ての経験はありませんので、今日の福音(ルカ 2・41 - 51)のマリア様、ヨセフ様の気持はよく分かりません。しかし、飼っている犬がいなくなって心配をしたことはあります。生まれたばかりの時から育てた犬で、やっと歩き始めた頃に、私が少し出かけて帰ってみたら、司祭館から脱走してどこかへ行ってしまったのです。韓国での話です。言葉では言い表せないくらい心を痛めた事件でした。食事の準備をしてくれていた人がいたのに、なぜ、犬を見てくれなかったのかと思いました。普通の人ならば、その人を責めることもできます。しかし私は神父ですから、その人に腹を立てることもできませんでした。腹を立ててしまえば、彼女も傷ついてしまいます。私にできることは、黙ってあちこち、犬を捜し回ることだけでした。普段関わりがある動物病院やいろいろなところへ連絡をしたり、ポスターを作って電信柱に貼ったりしました。そして2週間後に、やっと見つかりました。良い犬だから、拾って連れて行った人がいたのです。しかし、電信柱に貼ってあるポスターの「見つけてくださった方にはお礼をします。」という言葉を読んで、その人が私のところへ届けに来たのです。話を聞いて、嘘をついているのは分かりましたが、だまされたふりをしました。犬が戻って来た喜びが大きかったので、腹を立てることもなく、素直にお金を渡しました。

もしそれが犬ではなくて人間の子どもだったらどうでしょうか。自分の息子、娘ならばどんな気持ちになるのでしょうか。ここにも赤ちゃんのいる方がいらっしゃいますが、その子に何か起こったらどうしますか。想像さえしたくないでしょう。私もそのように思います。

今日の福音(ルカ 2・41 - 51)で、マリア様とヨセフ様は、子どもが自分たちのグループの中にいるのだらうと思ひ込み、一日進んでからいないことに気づきます。きっと大変だったことでしょう。そしてエルサレムまで戻ってみると、神殿で学者たちと話をしているという予想もしなかったようなことをしています。だから、「なぜこのようなことをしたのですか。」と聞いたのでしょう。すると、「自分の父の家にいるのは当たり前でしょう」というわけも分らないような返事が返って来ます。

聖書には、マリア様について書かれている箇所はいくつかあるだけです。その一つが今日の箇所です。そしてここで紹介された「なぜ」という言葉は、この事件以後には一度も使われていません。「なぜこんなことをしてくれたのです。」という質問は、この事件以後には絶対使われていないのです。

さあ、ここにいらっしゃるお母さん方、子どもたちに「なぜ」という質問をよくするのはありませんか。「なぜ、こんなことをしたのか」「どうして、こんなことをしたのか」とよく聞きますよね。しかしマリア様は、どうしてか分かりませんが、この事件の後、「なぜ」とは聞かずに、「心に納めた」のです。

イエス様のような息子がいるのは、命に係わるようなことです。妊娠した時からいろいろ大変だっ

たのでしょう。子どもの時も滅茶苦茶です。自分勝手に何でもしてしまいます。大人になれば、“よく分らないグループを作って、妙な話ばかりしている”という噂が聞こえて来ます。そして最後には、十字架の上で終わりを迎えたのです。そういう子どもを育てたマリア様の心は、どのくらいつらかったのでしょうか。イエス様という子どもを、生まれる時から死ぬ時まで、全ての過程を見守らなければならなかったお母さんの心は、想像できないと思います。

そういうことを考えてみると、お母さんである皆様は、子どもたちに対して、少し厳しすぎるのではありませんか。すぐに怒ったり、すぐに希望を失ったり、すぐに自分の心を痛めたり、そのような姿を見せていませんか。私たちは、母の模範的な姿があるからこそ、マリア様のことを救い主のお母さんとして尊敬しているのです。お母さんは偉大な存在です。誰も何も言えないくらい、偉大です。ですから、その偉大な存在であるご自分に相応しい態度を見せてください。

今は子どもさえ捨てる時代です。昔は、子どもが幼いうちに離婚すると、母親はどんなことがあっても子どもは自分が連れて行こうとしました。どの国でも同じです。しかし、今は逆です。ある男子校の同窓会に行ってみたら、子ども連れのお父さんたちばかりだった、という話があります。これは、神様が作った一番強い力さえ失う時代になったということでしょう。

マリア様の心は、お母さんの心として輝いている心ではありませんでした。いつも苦しみの中、心配の中で、ただ神様に対しての信仰だけを持ち、「この子をあなたに任せます。委ねます。」という祈りだけをしていました。

私たちは、このような偉大な母性をどのくらい生かしているのか、もう一回考えてみましょう。そして、もし足りないところがあれば、マリア様の取次を求めましょう。

ありがとうございました。